

## まちの情景と建築

田中 修一

## 世界編

看板・表示

絵で示す言葉 吊り下げ看板／シンボルマーク／オズボルネの切り絵



ヨーロッパでは中世まで極端に識字率が低かった。そこで店の看板や建物のマークに、シンボリックなデザインが工夫される。それがまた街路の雰囲気をも高める効果を出した。いくつかの事例を上から順に紹介する。

◀トルコのイスタンブール最大のマーケット、グランドバザールの入り口の門に掲げてあるきらびやかなマークである。(トルコ語でカパリチャルシュと言う)バザールの中は、宝飾品、骨董品、ガラス細工、絨毯、衣類、ピスタチオ豆・香辛料などの食品と、品目別に分かれて迷路のようなアーケードが延々と続く。トプカプ宮殿、メフメト二世ジャミイ(ブルーモスク)などと同じ高台に位置し、その西方向にたどるとマルオスマニエジャミイに至る。バザールの入り口はその隣にある。マークには公明性盛大で正確を示す天秤が示されているが、定価を

いかに負けさせるか、売り手と買い手の虚々実々の駆け引きが繰り広げられている。

▶スコットランドの首都エジンバラから北へ、カレドニア運河(かの有名なネス湖はこの運河の一部。氷河が削った湖なので水深は230mもある)の北の玄関口の町がインバネス。北海に面したイギリス最北に近い地域なので冬は厳しいが、実に風光明媚で穏やかな地方である。その郊外に領地を持つコーダー家の居城がある。城の入り口は跳ね橋で遮られていて、そこに右のような由緒ある紋章が掲げられている。城が築かれたのは14世紀と古く、シェクスピアの4台悲劇の一つ「マクベス」の舞台(モデルになるだけの雰囲気を持っている)としても有名だ。現在もコーダー伯爵の居城として使われている。



◀スペイン郊外的高速道路にある黒い牡牛の看板。材料はなんとベニヤ板だ。政府の指示で壊れたら作り変えることが許可されないのが、数は減っているが。イングランド・オズボーン貿易会社のシェリー酒の看板ある。オズボーンの牛→スペイン語でトロ・デ・オズボルネと言ひ、スペイン南部のアンダルシア地方で製造する度数15~18%の白ワイン(ヘレス)。これを1772年に設立したオズボーン社が販売して一世を風靡し、今日に至る。アンダルシアのシェリー酒は徳川二代將軍秀忠も飲んだとか。1610年代の話である。



◀店舗の看板の例を示す。

左はオーストリア・ウィーンの名店レッチェの蝋燭店。看板表示としての文字はどこにも見当たらない。左右のガラスはショーウィンドウで、中央が店の入り口である。中央ドアの上に小さく蝋燭が掲げられている。

右はハンガリー・ブタペストの書店の看板である。ふつうは平板を打ち抜いてシルエットとして見せることが多いが、この飾りは入り口のドア枠の上に金属板で立体加工をしてある。天使が翼を広げて松明を掲げている図だが、店主の意気込みが感じられる。